

宮私幼PTAだより

第104号

発行 者 連 合 会
宮 私 幼 P T A 連 合 会
(会長 編 集 委 員 会
広 報 事 務 局)

仙台市青葉区国分町三丁目6-12
佐 正 第 二 ビ ル 6 F
電 話 (022)263-7040 番

未来へ、地域へ、子どもたちへ！ 躍動の一年を皆さまと共に



宮城県私立幼稚園PTA連合会

会 長 佐々木 幸士

本連合会の皆さまにおかれましては常日頃よりのご理解とご協力で心より感謝申し上げます。

四年にわたり未だ感染者を出し続けている新型コロナウイルスも感染対策を設けながら、これまでの経験則を生かし、現在は冷静に日々の中で向き合っているものと認識しております。命を何より重んじる判断から幼稚園の活動にも厳しく制限をかけて参りました。四年の年数となれば、感染対策に制限されながら通う日々のまま卒園された子どもたちと保護者もおります。昨年、様々な行事を再始動することができましたが、子どもたちがやりたいことを思う存分に行い、子どもたちのみならず、保護者や教職員の皆さま、その場面にいる全ての皆さまの弾ける笑顔に溢れた各行事を一年通して行えたことに感謝しながらも、どのような環境下であっても幼児の幸福を増進させる教育を支えること

が私たちの活動の原点であること、を皆さまとあらためて共有して参りたいと存じます。

さて、少子化問題が深刻化する中で宮城県における出生率も昨年は過去最低を更新するなど厳しい状況下にあります。経済的な支援のみならず、仕事、育児、家事に忙しく過ごされる皆さまの生活へのサポートなど、子どもを産み、育てる様々なライフステージに対する支援と対策の必要性を県議会においても喫緊の課題として議論しているところでございます。

しかしながら、行政のみで解決できる課題でもありません。地域全体で向き合うべき課題であり、それは未来への責任、次世代へ託す宮城そのものであると考えます。宮城県私立幼稚園PTA連合会が担うべき責務は、私たちが支える幼児教育が地域社会にとって大切なものであること。また、子どもたちと保護者の人生の大切な時間

を支え、豊かなものにする。こと。さらには、その現場で働く教職員皆さまにとって働き甲斐、やりがいを感じていただける職業にすること。そうした価値を社会にしっかりと示すことで、子どもを産み、育てることの社会的意義を私たちの立場から地域にあらためて示せるものと考えております。本連合会の活動を充実させることが地域の重要課題の解決への一助にもなりますことも皆さまにご認識いただければ幸いに存じます。

毎年、本連合会では宮城県へ知事要望を行って参っております。昨年度は給食食材費高騰対策として完全給食の場合一食あたり四〇〇円の補助や原油価格高騰対策として園児一人あたり年額一万五〇〇円の助成施策を行っていただきました。令和六年度からは、指導に配慮を要する園児のうち公的証明書がないことにより国庫補助の対象とならない園児への要支援児支援事業、園児一人あたり一九万六〇〇〇円の助成事業も新設されます。各施策も皆さまの現場の声があつてのものでございますので、引き続き皆さまとの意見交換もしくかりと行つて参ります。

未来を担う大切な地域の宝である子どもたちに注ぐ深い愛情。その思いを一つに更なる躍動の一年にして参りましょう。

皆さまの引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。お挨拶といたします。



全日私幼PTA連合会 委員総会報告

副会長 横澤 行夫

お人形社第二(T)

七月二十二日、東京・私学会館にて全日私幼PTA連合会委員総会があり出席してきました。東京は、当日三十六度を超える気温の日で、午前十一時からの会議に汗をかきつつ会場へ着きました。会場は快適な温度で寒いくらいに冷えてました。当日、東海道新幹線が事故で、名古屋へ東京間が不通で、欠席者も若干おりましたが、全国より六〇名の参加者があり、開会いたしました。初めに役員改選があり東北地区の常任委員は当番で山形県代表を選出。その後各地区より選任された常任委員が別室に集まり、今年度の執行部を選任しました。今年度新会長に選任されたのは、山本順三氏(愛媛県選出衆議院議員)、副会長は、留任、最高顧問に元会長の森喜朗氏を、顧問に、前会長の月本喜久氏に委嘱することを承認し、役員改選を終えました。

その後、事業報告・決算報告・監査報告並びに今年度事業計画案・予算案について審議され、承認されました。最後に執行部より発言があり、三年前に起こした全日私幼連合会及びPTA連合会の不祥事では、加盟園、保護者のみならず、社会に対して信用を失墜させたことを反省、今後は組織改革を推し進め、ガバナンス強化に向け、誠心誠意対応してまいりたいとのコメントをし、会議を閉会しました。

令和六年度 役員名簿

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 会 長 | 佐々木幸士 | 富 沢 P |
| 副会長 | 渡辺 勝幸 | 六 郷 P |
| | 伏谷 修一 | 八幡花園 P |
| | 佐藤 千春 | 体もみじが丘 P |
| | 横澤 行夫 | 研お人形社第二 T |
| 重務委員長 | 鎌田 俊昭 | 八幡花園 T |
| 監 事 | 林 美和 | 研南光シオン P |
| | 齋藤 さやか | 立 華 P |
| 常任委員 | 菅原 彰 | すがわら T |
| | 佐々木拓真 | 立 華 P |
| | 大場 和晃 | 八幡花園 P |
| | 小松 智子 | 研南光シオン T |
| | 山内 祐子 | 立 華 P |
| | 佐々木恵理 | 立 華 P |
| | 岡田 浩子 | 立 華 P |
| | 小野 政彦 | 立 華 P |
| | 佐藤 和枝 | 体もみじが丘 T |
| | 神戸 典子 | 体もみじが丘 T |
| | 阿部 ふき子 | 研いちようの美 T |
| 委 員 | 沼崎 敬子 | 立 華 T |
| | 柴崎 和見 | 研緑ヶ丘第二 T |
| | 沼倉 江美子 | 研緑ヶ丘第二 P |
| | 佐藤 真彩 | 立 華 P |
| | 泉 洋子 | 立 華 P |
| | 白石 道子 | 研南光シオン T |
| | 渡邊 国権 | 研南光シオン P |
| | 菅原 水緒 | 立 華 P |
| | 野津 祥明 | 立 華 P |
| | 山口 麻美 | 立 華 P |
| | 大庄司 美花 | 立 華 P |
| | 高橋 智宏 | 立 華 P |
| | 小幡 睦美 | 研いちようの美 P |
| 顧 問 | 中野 正志 | お人形社 P |
| | 中沢 幸男 | 立 華 P |
| | 渥美 巖 | 立 華 P |
| | 中島 源陽 | 立 華 P |
| | 深谷 晃祐 | 立 華 P |

◎各部会部長 ○各部会副部長
(研)研修部 (体)体育部 (広)広報部

宮私幼教育振興大会
宮私幼PTA研修大会

緑ヶ丘第二幼稚園(P)

研修部長 沼倉江美子



令和六年七月五日
に、令和六年度宮城
県私立幼稚園・認定
こども園教育振興大
会、第五十一回PTA研修大会が
開催されました。

第一部の振興大会では、大会宣言
で四つの宣言が読み上げられまし
た。また、村井嘉浩宮城県知事を初
め、多くのご来賓の皆様からご挨拶
ご祝辞を賜りました。行政・地域・
家庭が幼児教育の大切さを理解し、
力を合わせて充実した幼児教育環
境を整えていく社会が作られていく
ことを願いました。

第二部の研修大会では、東北大学
教授、スマート・エイジングセンタ
ー長 瀧靖之先生にお越し頂き、「子
どもたちの健やかな脳発達のため
に」と題した講演をして頂きました。

子どもたちの脳発達のため、何を
するのが良いのか、何が重要なか
を考える良い機会になりました。幼
児期は「何だろう、どうしてだろう」
といった知的好奇心が伸びていく時
期であるこ
と。この時
期のいろい
ろな経験は
とても大切
だが、子ど
もは大人の
真似をして
力を獲得
するため、



より大切なことは物を与えるだけで
なく大人も一緒に楽しむこと。とお
話がありました。大人が楽しむ姿を
見せる「楽しいね」「ふしぎだね」等
と言葉を交わし、子どもの声や表情
を読み取り子どもの内面に心を寄せ
ていける親でありたいと思いました。
また、スマホなどのデジタルデバ
イスを止めることは出来ないの時
間を決めることが必要。本来ならば
寝ている時間、会話している時間、
運動する時間まで奪わないこと。と
のお話に、健全な心身の成長・脳の
発達を大切にしたいと思いつつも
悩んでいたことへのヒントが見つか
つたように思いました。子どもたち
の基本的な生活習慣を保障していけ
るよう心がけようと思います。

今回貴重なお話を聞かせてくだ
さった、講師の瀧靖之先生には、深
く御礼申し上げます。ありがとうございます。
最後に、この紙面をおかりして振
興研修大会の開催及びPTA連合会
の活動にご尽力いただいている皆様
にも、改めて御礼申し上げます。あ
りがとうございました。

会員の声

夕涼み会

ひばり幼稚園(P)

山口 麻美



七月下旬、今年も
夕涼み会が開催され
ました。ひばり幼
園では年長児が参加
するもので保護者が作ったTシャツ

を着て縁日を楽しんだり、キャン
プファイヤーや花火を見る夏休み前
の一大イベントです。前日の夜から
楽しみにしており待ち遠しさが伝わ
てきました。

園庭で先生方が用意してくださ
ったポップコーンを食べたり、くじ引
きをしたりしてワイワイと楽しみま
す。お友だちと「何味にする？」
とかき水を食べた後の舌を見せ合っ
たりしていました。

先生方による出し物もあつたりと
子どもたちのテンションも一気に上
がります。

夕食後は園庭で保護者と一緒に
キャンプファイヤー、花火鑑賞です。
エビカニ音頭を踊ったり、歌ったり
と盛り上がりました。最後は親子で
花火鑑賞です。打ち上げやナイアガ
ラといった花火はとても見応えがあ
り「きれい」と声がたくさん聞かれ
ました。素敵な思い出ができました。

いつも、子どもたちが楽しめるよ
うに企画から準備をしてくださって
る先生方には感謝の気持ちでいっ
ぱいです。ありがとうございます。残
り少ない園生活ですが楽しんで支え
ていきたいです。



羽黒山参拝行
二四四六段の旅

千手寺幼稚園(P)

野津 祥明



令和六年七月十
三・十四日、千手寺
幼稚園行事の第四十
一回羽黒山参拝行に
参加させていただきました。

ました。

晴天の中、羽黒山随神門に到着し
いよいよ参拝です。神秘的な杉並木
の中、白衣を身に纏い金剛杖を手に
隊列を組み登り始めました。五重塔
を超えた所でいよいよ一の坂、ここ
から本格的な石段が始まります。先
頭の「フアイト」の掛け声とともに
一段一段登っていくと「わあっ」と
声が出るほどの急勾配の二の坂が現
れます。子どもたちはそんな坂を見
ても弱音を吐かず元気に登ってい
きます。掛け声も子どもたちの方が大
きくなり親の方が子どもたちに助け
られながら登っていききました。「フ
アイト・フアイト」とみんなで声を掛
け合い、力を合わせて登っていき
二四四六段もの石段を登り終えた子
どもたちの表情は達成感に満ち溢れ
キラキラと輝いています。その夜
はみんなで宿坊に泊まりです。親元
を離れて初めてのお泊りで不安の
中、友だちと一緒に助け合い楽しい
思い出となったと思います。

この行事を通して子どもたちは一
泊二日を友だちと過ごし様々な経験
で忍耐力や助け合う心を育み一回り
も二回りも成長したと思います。
私自身、子どもたちの成長を身近
で感じることができ、このような大

変貴重な経験をさせていただいたこ
とに改めて感謝しています。
これまで子どもたちのために様々
な行事を続けてきていただいた園長
先生はじめ先生方、ご協力いただ
いた方々に感謝しながら残り少ない園
行事へ積極的に参加していきたいと
思います。



令和六年度 行事予定

九月六日(金)

バレーボール代表者会

九月三十日(月)

第二回役員会

十月二十二日(火)

第四十七回宮私幼PTA

親善バレーボール大会

(セキスイハイムスパーアリーナ)

期日未定

知事陳情・県議会議長陳情